

# 城主からの手紙

皆さんは、かつて桐生にもお城があったことを御存知でしょうか。お城といっても、姫路城や彦根城のような天守閣のある城ではありません。室町時代後半から戦国時代にかけて、市内にはいくつもの城や砦が築られました。たいていは山の尾根筋を巧みに利用した山城で、その中でも代表的なものが、梅田町一丁目の松杓山（城山）にあった松杓山城（桐生城）です。

かつては、城主の姓は桐生氏だとされていましたが、古文書や仏像の胎内銘などから、近年では城主の姓を佐野氏とする見解が有力になりました。今回は今から五百年ほど前の松杓山城に関わる古文書を

紹介し、戦国時代の桐生の様子や左側の下あたりに、ひとさわたく書かれた部分があります。

これは花押といって、貴族や武士が自分が出したものであることを保証するために書いたサインです。この花押は松杓山の城主「重綱」のもので、宛先は配下の「新居豊前守」。前半部分が欠損し、後半部分しか残らないこの文書で、重綱は豊前守に次のようなことを命令しています。

「配下の小倉衆や仁田山衆に命じて、城の周りに松の苗木を五百本植えさせるように。」

## 重綱書状

なぜ松を植樹したのかの理由は、常緑針葉樹の松を植えることで、城の様子をうかがいにくくするといった防御面と、木以外の建築材が存在しない当時において、城の修繕をはじめ

めとした普請に用いるためにも、計画的な植林は欠かせなかったからだと考えられています。

松杓山城の城主について、古文書では「佐野大炊助」や「佐野周防守」と書かれており、同時代史料により実名が確認できる人物は、この重綱と助綱（祐綱）の2人だけです。この時期、松杓山は深緑に包まれています。その山頂には、戦国時代の興亡を見つめてきた曲輪（注）跡が残ります。

問い合わせは、図書館（☎474341）へ。  
（注）曲輪＝城や砦の周囲にめぐらした土石の囲い

▼「重綱書状」展示  
期間＝7月1日（土）～30日（日）※月曜日と18日（火）は休館。  
場所＝図書館1階



桐生女子高校の裏にそびえる松杓山

## 今月の表紙

新里町にある山上城跡公園のアジサイが見ごろを迎えています。ホンアジサイとガクアジサイが合わせて約2,300株ほど植えられ、「山上城跡」の空堀の周囲を花を眺めながら散策できます。例年の見頃は6月中旬から7月中旬ですが、開花が遅れたので少し長く楽しめます。

## 人口と世帯

(5月31日現在)

人口	114,463人 (-237人)
男	55,126人 (-134人)
女	59,337人 (-103人)
世帯	49,928世帯 (-63世帯)

( )内は前月比

## 今月の納税

固定資産税・都市計画税…第2期  
国民健康保険税…第1期  
7月31日(月)が納期限です

コンビニエンスストアや銀行などのペイジー対応ATMからも納付可能です。口座振替を利用している人は、預貯金残高の御確認をお願いします。

広告